

令和2年度 第1回苫小牧市文化財保護審議会（書面会議） 会議概要

基準日：令和3年3月8日（月）

審議委員：菘島会長、蓼沼副会長、揚妻委員、坂田委員、鈴木委員
白木委員、阿部委員、山岸委員、一谷委員、松本委員 計10名


※本審議会については、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、参集しての会議を中止し、書面にて会議を開催いたしました。

1 議 事

(1)令和2年度文化財保護事業実施状況について

令和2年度文化財保護事業に実施状況について、事務局より説明。

<意見等（整理・要約）>

	意見等	意見等に対する事務局の回答等
1	<p>【文化財の保護について】 静川遺跡への二輪車乗り入れについて、遺跡は柵で囲っていたと思うが壊して侵入したのか。</p>	<p>バイク等二輪車がどこから侵入したかは特定できていませんが、柵を壊された跡はありませんので遺跡入口（2か所）から侵入したものと考えております。</p> 
2	<p>【文化財振興事業について】 「地域の文化財を学ぶ」、「地域の歴史を知る」という点について、勇払中学校と連携が図れたことは大変良いこと。今後この事業の充実を図るためにも、今回どのような形で連携をしたのか、もう少し具体的な説明を聞きたい。</p> <p>また、「文化財を通じて街（地域）に関心を持つ機会の構築」を目指そうとするのであれば、今回の連携は、ま</p>	<p>今回の勇払中学校の取り組みは、学校側から「これまでも勇払の歴史を学ぶ機会は設けてきたが、今回は勇払地区に複数ある文化財に着眼し、直接足を運ぶことを切り口に、これまで以上に歴史を知る機会にしたいので協力してもらえないか」という提案をいただいたことがきっかけとなり、資料提供及び勇武津資料館職員による解説、勇払恵比須神社や勇武津不動の奉納品見学に伴う所有者との調整などを行いました。市教委としましては、勇武津資料館設置条例にて勇払地域に関</p>

	<p>さにこれから地域の歴史や文化財に関心を持っていてもらいたい生徒たちの意見を聴取できる大変良い機会であった。その意味で、提供した資料の内容や文化財に対する彼らの関心の在り方などについて、アンケートを取ったか。取ったのであれば、それを開示して欲しい。取っていないのであれば、今後同じような機会があった際には、ぜひ実施して欲しい。</p>	<p>する文化財等の保存及び活用を図るために勇武津資料館を設置するという目的があること、また、これまで“文化財を通じて、街（地域）に興味関心を持つ”ことを目的にパンフレット制作等を実施してきましたが、活用については具体的な取り組みを実施できていなかったことから、今回の勇払中学校との連携は重要であったと考えております。</p> <p>次に生徒へのアンケートについては、市教委としては実施しておりませんので、今後同様の機会があれば参加者の声を聞いたうえで次に生かす取り組みを進めてまいります。</p> <p>最後に今回の成果を拡げていくためにもホームページでの情報発信など進め、小さい頃から文化財を知る機会の構築を目指して参ります。</p>
3	<p>【文化財振興事業について】</p> <p>勇払中学校の「地域調査学習」に関わったことは大変有意義なことと思う。市の出前講座のメニューとして文化財を学ぶものを構築してはどうか。</p>	<p>御指摘いただきましたとおり文化財に特化した出前講座は現在設けておりませんので、文化財関連で専門性の高い学芸員を配置している美術博物館と協議してまいります。</p>
4	<p>【文化財振興事業について】</p> <p>毎年行われる「文化財発見ツアー」だが、毎年資料（写真）で見る限り、文化財への関心を持ち、将来その保護を担っていくべき若年層の参加が少ないように思われる。</p> <p>ツアーそのものについては、毎回「概ね好評」というアンケート結果が示されており、そうであればこそ、若年層に積極的に参加をしてもらいたい。そのためには、まずはアンケートに回答されている内容（参加者の年齢層や具体的にどのような点が好評だったのか、あるいは実施時期の適否など）を明らかにしてもらい、審議会の</p>	<p>今回の参加者の年齢構成は 20 歳未満が 6 人、30 代が 1 人、40 代が 4 人、60 代が 6 人、70 歳以上が 15 人となっております。ちなみに昨年度は 40 代が 1 人、50 代が 1 人、60 代が 9 人、70 歳以上が 17 人と昨年度に比べ若年層の参加が増えたものの 60 歳以上の方が全体の 66%を占め、御指摘いただいたとおり、若年層の参加が少ない状況となっております。</p> <p>アンケート結果から若年層参加者の意見として、「いろいろな文化財に行けて楽しかった」「苫小牧近郊にこんなに遺跡があることを知らず、勉強になった」との好意的な声がある一方で「講義の内容が難しかった」との声もあり、説明方法の工夫が必要だと考え</p>

	場で精査、検討してみる必要があるのではないか。	ております。 これらのアンケート結果も踏まえ、若年層の方が参加しやすい内容を工夫してまいります。
5	【文化財振興事業について】 文化財発見ツアーについて、親子連れの参加が見受けられ、大変良かったと思う。コロナの影響で市外へ出かける機会が減っている今、身近な文化財等をアピールする好機かも知れないので益々の内容等の充実を求める。	御指摘いただきましたとおり、コロナ禍で出掛ける機会が減少していることから市内にある身近な文化財に興味関心を持ってもらう良い機会だと考えております。今後、参加者アンケートも踏まえ、内容の充実に向けて工夫してまいります。
6	【文化財振興事業について】 「北の縄文パネル展」への静川遺跡パネルの展示について、せっかく準備された企画なので、中央図書館だけでなく、各地域のコミセンでも巡回・展示を行ってはどうか。	「北の縄文パネル展」は北海道胆振総合振興局が主催し、市教委では静川遺跡の説明パネルの貸出を行っております。本事業は胆振管内のその他自治体でも開催しているため、同じ企画を別会場で実施することは難しいと考えますが、静川遺跡を市民に周知する機会としては有効と考え、実施に向けて胆振総合振興局へ働きかけます。
7	【文化財振興事業について】 文化財看板の更新についてだが、静川遺跡・タプコブ遺跡にも植苗貝塚のイラスト同様、周囲が海であったことを示すものがあれば当時の状況がわかりやすいと思う。既に埋め戻された現在の遺跡そのものより、当時を忍べるものがあった方が良くと思う。	看板の内容については、その文化財ごとに特徴的なことを抽出し作成しております。例えば、静川遺跡は全国初の縄文時代の環壕の発見であり、その部分の説明を中心に制作しております。このように文化財ごとに知っていただきたいことを精査のうえ、作成しておりますので御理解いただきますようお願いいたします。今後、気候など背景的なことも考慮してまいります。
8	【文化財振興事業について】 市民に対し、文化財を広く知ってもらう機会の構築を今後も継続して取り組んで欲しい。	内容についてご理解いただきありがとうございます。今後も文化財を知る機会を積極的に設けていきたいと考えております。
9	【令和2年度決算見込み】 文化芸術振興事業費にて【資料1】では「需用費（印刷製本費）」となっているが、【資料2】の算定内容には	今回作成するクリアファイルはとまチョップと文化財に関するイラストを載せたオリジナルの物を考えており、既成品の購入ではないことから市の会計上、印刷製本費とい

<p>「クリアファイル」と記されており、「印刷製本費」と「クリアファイル」との整合性が不明。また、「クリアファイル」は、どのように活用されたのかが不明。</p>	<p>う予算区分となりますので御理解願います。</p> <p>また、クリアファイルの活用については、今年度実施する予定であった文化財スタンプラリー等にて活用する予定でしたが、今年度は新型コロナの影響により実施することができなかったことから、次年度以降の文化財関連イベント等において活用したいと考えております。</p>
--	--

<結果> 委員 10 名中、承認 10 名で、承認される

(2)令和3年度文化財保護事業（案）について

令和3年度文化財保護事業に係る予算及び新規事業について、事務局より説明。

<意見等（整理・要約）>

	意見等	意見等に対する事務局の回答等
1	<p>【令和3年度予算】 文化財保護保存事業費 委託料に記載している文化財PR事業の2年度決算見込みが22万円になっているが、P7の決算見込みのどこに相当するのか。文化財推進事業が22万円になっているが、委託費でPR事業は存在していない。予算の項目立てや予算書・決算書の作り方があまり良いとは言えないのではないか。</p> <p>また、PR動画はどこで使用・配信するのか。具体的な活用法を示して欲しい。</p>	<p>文化財保護保存事業費の委託費に記載している決算見込み22万円については、令和2年度予算の文化芸術振興事業費の委託料（アイヌ丸木舟埋没舟泊跡説明看板設置）と同じであります。令和3年度より一般管理費用と文化財保護審議会の調査・審議に係る部分の予算を明確にするため、新たに「文化財一般管理費」と「文化財保護保存事業費」に事業名を変更し、予算整理を行いました。これまでの文化財推進事業はパンフレット作成や説明看板設置など文化財を広く市民に周知するための事業でしたが、事業内容がわかりづらかったことから令和3年度より文化財保護保存事業費に整理するものですので御理解いただきますようお願い申し上げます。</p> <p>また、令和3年度の新規事業であるPR動画について、使用・配信など具体的な内容はこれからとなりますが、文化財発見ツアーをはじめとした文化財イベントでの使用や市ホームページへの掲載、美術博物館での上映などを考えております。</p>

2	<p>< 1の回答に対して> PR動画は活用法・配信方法により内容が変わってくるはず。きちんと目的を想定し、それにあった動画作成を行って欲しい</p>	<p>文化財を市内外へ発信することを目的にPR動画を作成するなかで活用法・配信方法の詳細についてはこれから決めてまいりますので、御意見を踏まえ検討してまいります。</p>
3	<p><令和3年度 今後の主な事業予定> ④文化財スタンプラリー 植苗貝塚のようにインターネットのグーグルマップに載っていない文化財は全部掲載するようにした方が場所がわかりやすいと思う。</p>	<p>文化財スタンプラリーの箇所選定については、時代別・地域別などテーマを設け、その趣旨に沿った選定を検討しております。市民に知られていない文化財を中心に選定した方が良いのではという御指摘かと思いますが、そのことも踏まえ、箇所選定していきたいと思っておりますので御理解の程よろしく申し上げます。</p>
4	<p><令和3年度 今後の主な事業予定> 来年度に向けての新規事業など、市民の文化財への関心を高めるのに大変有効な企画と思われる。その一方で、もう少し身近な形で、この街（地域）の文化財に関心を持ってもらう必要がある。その一つの方法として、「広報とまこまい」に苦小牧の文化財を紹介するコラム欄を設けることはできないか。「広報とまこまい」は苦小牧市民が最も目にするメディアの一つであるから、月1回程度であっても、関心を持ってもらうきっかけづくりとしては有効だと思われる。</p>	<p>御意見のありました「広報とまこまい」への文化財コラムの掲載についてですが、全世帯に配布される広報を用いた周知は多くの市民の目に触れる機会となりますが、紙面には限りがあり、難しいものと考えております。しかし、これまではパンフレット作成など文化財の紹介に力を入れてまいりましたが文化財にまつわる歴史や重要性などを多くの市民に伝える手法としてコラムなど新たな視点は重要であると考え、どんなことが出来るか今後工夫してまいります。</p>

<結果> 委員10名中、承認10名で、承認される。